

第111回 番組審議会 議事録

開催日時：2020年10月に郵送にて開催

1) 出席委員（総数7名：出席数7名）

小島香代子／赤川茂樹／加藤陽介／大畑卓也／塚本明子／弓場美奈／近藤慎一

2) 審議番組の内容

番組タイトル 『空きコマラジオ』

パーソナリティ 中京大学 加藤ゼミに所属する学生

放送日時 2020年9月8日(火) 19時30分

再放送 9月12日(土)18時30分～19時00分、

9月13日(日)23時30分～24時00分

番組概要

地元中京大学の学生が企画・取材、制作まですべてを行い、
大学生が自らの視点で様々な話題をお届けする30分番組。

3) 審議の内容

【小島委員】

・とても気持ちよく好感を持って聞くことができました。福田さんは、声も良く、発声もしっかりしていて聞き取りやすい。文節の最後まではっきりと言っていて良かったです。考え方や、姿勢が前向きで元気を頂けました。

・選曲も等身大で、若さがあって良かった。

・フリートークで少し気になる点がありました。彼女が「にっぽんど真ん中祭り」で感じているメッセージは十分に伝わりました。今だからできる事や、挑戦の気持ち、名古屋から世界に発信できる事など、熱い気持ちは伝わりましたが、「すごく」と「本当に」が多発されていて残念でした。その点だけ気を付けていただければかなり良くなると思います。

・企画の朗読もとても良かった。心温まるお話で、なんだか懐かしく聞けました。今後の活躍を期待しています。

【赤川委員】

- ・ 学生が学生に向けて、学生目線で番組制作をしているとあったが、違和感なく聞くことができた。かえって、大学生の今を知ることができ、面白い番組だと思う。
 - ・ 大学のスタジオ収録では、複数人での掛け合いがあり今回とはまた違った雰囲気だったと思うので、どう違うのか聞いてみたいと思った。
 - ・ 紹介されていた中京大学晴地舞の動画を見たが、小渡の風鈴まつりや豊田スタジアムなどをうまく使った内容であった。中京大学生ということで豊田市出身の方は少ないと思うが、地域への愛が伝わるものであった。
- 最後に番組内で気になった点が2点ありました。
- ①「テレという状況」という言葉を使っていたが、一般的な言葉ではないので「テレ」の意味を説明してから使った方が良かったと思う。もし、大学生にとっては一般的な言葉になっているのだとしたら、それを知ることができるのが良さになる。
 - ②最後1分半ほど音楽が流れていたが、時間調整にしては長いなと感じた。これがプロとアマチュアの差なのかもしれませんが。

【加藤委員】

- ・ 若干のぎこちなさは感じますが、丁寧じゃべろうと意識しているのが伝わってきます。
- ・ 表現力はまだ足りないと思いますが、「につぽんど真ん中祭り」の中京大学の話などは内なる熱い思いを感じるものがありました。そうした思いが声やししゃべりに乗せられるようになると、とてもよいなと思います。
- ・ 朗読コーナーは面白い企画ですね。本の内容もよかったと思います。
- ・ 朗読は台本があるためか、硬さが取れてぎこちなさがなくなり、表現をつけながら、本来の良い声、しゃべりが出ていたと思います。その後のトークも硬さが取れたままで、しゃべりが良くなったように感じました。
- ・ 場数を踏んで冒頭から力を抜いたしゃべりができるようになればと思う反面、多少の硬さがあるのも大学生の手作り感があって、そういう雰囲気も捨てがたいなと思いました。

【大畑委員】

・福田さんの緊張が伝わってきましたが、ゆっくり話して頂いているので、とても聞き取りやすく感じました。エピソードトークをするときには、具体的なエピソードをトークの頭にもってくるのと話が広がってもっと良くなると思いました。

・「にっぽんど真ん中祭り」について、中京大学晴地舞について思い出に浸りながら話しているのが目に浮かびました。演舞動画を見ましたが、豊田市小渡町で夏に行われる「小度夢かけ風鈴」を題材としてダイナミックに舞っていました。ネタバレを気にされていましたが、もう少し情報を出して、リスナーの興味を引き立たせると良いと思います。

・10分で読める感動小説「揚げパンの誕生物語」について朗読しているときには、トークに抑揚あってとても良いと思います。感想を話すときにも抑揚がつくように、事前に台本を作って話すと良いと思いました。

・とても緊張されていましたが、その緊張がとても初々しく感じて良いと思います。惜しいのは、落ち着いた性格のためか、感情が声から伝わらないことです。友達と一生懸命に汗を流し、涙した夏の思い出は、もっとリスナーに届けられると思います。トークに抑揚、そしてメリハリの利いた言葉選びを意識すると良いと思います。

・パーソナリティとしては、現段階では、福田さんが話したいことを話しているというレベルと感じました。リスナーにどんな情報を伝えたいか。情報をわかりやすくするために、どんな情報が必要か。さらに、どう話したらリスナーに聞いてもらえるか。そんなことを考えて番組構成を決めると魅力的な番組になると思います。現役大学生ならではの番組を楽しみにしています。

【塚本委員】

- ・落ち着いたトーンで率直に近況を語り、感想を述べていたのは良かった。
- ・「にっぽんど真ん中祭り」のMCについてのトークは、スタッフとして参加した感動が伝わってくる。思いが強い分トークが長くなり、間がなく少し単調になってしまっているように感じた。
- ・朗読は、抑揚もあり、間を取りながらよく読めていたと感じた。気持ちも入っていて読み込んでいたと感じた。
- ・朗読の内容も、当時の時代背景を伺えてよかった。本当にあった話ということで、若い人たちにも共通する給食の話題に関する話で興味を持てたと思う。感想を語る口調も自然体で良かった。
- ・選曲も良くされていて、番組に違和感なくはまっていたと感じた。
- ・エンディングトークもスッキリ終わっていて良かった。
- ・語り口が、はっきり丁寧で、流してないところできていて良かったと思います。
- ・この番組の収録現場が自宅で、1人だけということに、まず、それだけでよくできていると感じた。
- ・コロナ禍ならではの得がたい経験を大切に、活かしていただきたい。

【弓場委員】

- ・福田さんの声はとても可愛らしく、また発音や声の大きさなど、とてもはっきりとしていて大変良かったと思います。
- ・番組の内容は、少し物足りなさを感じてしまいました。リスナーに興味を持ってもらえるような話術というか、ぜひこの番組でどんどんチャレンジしてもらいたいなと思いました。学生さんだとわからないぐらい、本当にラジオ慣れしていてびっくりしました。

【近藤委員】

・大学生の福田さんの声や話し方はとても聞きやすいと思いました。アナウンサーを目指されているということでとても発音もよく、とても練習されているのだらうと思いました。

・一般ラジオリスナーとして番組を聞いてみたときに感じたことは話し方がラジオパーソナリティというよりも、アナウンサーのように聞こえてきました。その違いは何だろうかと考えてみたところ、リスナーに向かったの問いかけとか、パーソナリティ自身の感情表現、そういったところが、原稿とかではないトークがあるかどうかという所ではないかと思いました。エンディングトークの部分が一番そのパーソナリティに近い話し方だったような気がします。

・自宅に機材を持ち込んで一人で収録したということですので生放送でリアルタイムにリスナーに問いかけるということでもなく、機材に向かってひとり、感情的な表現をしたり、問いかけをするようなトークを収録するのはなかなか至難の業ではないかと察します。大学生でここまで上手な話し方ができるなんてすばらしいと思う一方で何か成長発展につながる審議をと思い、あえて高い要求をさせていただきました。

以上